



なぎさの体験学習館スタッフおすすめ☆漂着物ガイド

このあたりの砂浜にはよく知るものから「これなんだろう?」と思うものまで流れ着きます。たくさんあるうちの一部をご紹介します。

生きものの殻 その1 ～貝がら～

砂浜で目をひくことが多いのは“貝がら”。中でも桜のような色のものは“桜貝(サクラガイ)”と呼ばれます。花びらのように薄いところも“桜”のよう。岩場が隣り合う砂浜では割れたものが多いので、完全な形を探すには広い砂浜が適しています。



桜貝は複数の種類をまとめて呼ぶ言葉でもあります。その種類は、光沢がありピンクやオレンジ色のカバザクラ。貝がらの長辺がカバザクラより直線的なサクラガイ。桜貝の中では貝がらが厚めで、弧を描くような成長線がはっきりとしたモモノハナガイなどです。ビンに集めて飾ってもすてきですね。

人工物 その1 ～ビーチグラス～

割れたガラスが波や海の中で、砂などにもまれてできたものを“ビーチグラス”と呼びます。長い年月をかけて曇り、とがっていた部分が丸くなっています。元々はガラス製品なので、白・茶・水・緑、中には2色混合のものもあります。



ビーチグラスを拾ったら…なぎさの体験学習館ではビーチマネーの取り組みに参加しており、3cm以上のビーチグラスの個数によって貝がらや葉書などと交換できます。他に、ペンダントやマグネットなども作れますよ。みなさんは、どのように使いますか? ビーチマネー: <https://beachmoney.jp/>



流木

砂浜に漂着する流木の大半は、元々山に生えている樹木の枝などです。山から川を流れながら、岩やいろいろなものにぶつかり、海にたどり着きます。海では波によって、行ったり来たり、樹皮がむけていき、流れ着きます。



流木は、長いもの、短いもの、太いもの、細いもの、いろいろな形や色をしたものや、穴が開いたものと様々。よく見ると何かに見えてきませんか。流木を使って、オブジェやフォトフレームなどの作品ができます。みなさんも流木で、工作をしてみませんか。



石

砂浜で見つかる石は角が取れて丸いものがほとんどです。日によって流れ着く量は多かったり、全くなかったり。そして大きさ、色、形は様々です。暗い色のものが多いのですが、よくよく見ると、種類がたくさんあることがわかります。



みなさんも手に取った石をよく見てみてください。これらの中には火山噴火でマグマが固まったものがあります。小さな穴がたくさんあるものは噴火の際に飛んだもの。このあたりに黒っぽいもの(スコリア)は多いのですが、白っぽいもの(軽石)は噴出する火山が近くにないので、見つけたら貴重ですよ。





植物の種子

砂浜では川から流れてきたクルミの殻を見つけることもありますが、さらに長旅をした珍しいものも見つけられます。“それ”は、片瀬海岸の隣、腰越海岸を歩いていて見つけた、つやつやとした塊でした。手に取るとどうやら石ではなさそうです。



調べてみるとコウシュンモダマといい、沖縄より南に育つ植物の種子でした。ということは、黒潮に乗ってずっとずっと流れてきたことになります。こちらのモモタマナも同じで、これは元々の種子の見た目からも変わっています。みなさんも調べてみると、レアなものがあるかもしれません。



生きものの殻 その2 ～ウニの殻～

砂浜で見つかる生きものの殻は貝以外にもたくさんあります！穴があいたおまんじゅうのような形をしたものは“ウニの殻”です。ウニの殻はもろくて割れやすいため、このように完全な形で残っていたらラッキーです。



ウニの表面をよく見るとボコボコした突起やたくさんの細かい穴があります。突起はウニの棘が外れた跡。そして穴はウニの足(管足)が出入りしていたところです(ウニにはなんと足もあるんです)。種類によって穴や突起の大きさ、並び方が違うので比べてみるのもオススメです。



生きもの

波打ち際で砂の表面をよく見ていると、波に運ばれては動く、小さな三角形のものを発見することができます。その正体はフジノハナガイという二枚貝。フジノハナガイは貝がらも流れ着きますが、このように生きているものも見られます。



全長約1.5cmと小さいので、波が押し寄せると勢いで表面に現れるのですが、波が引くと一斉に砂に潜り、あっという間に姿を消します。その様子はさながら忍者のよう。とても面白いのでつい見入ってしまいますが、波打ち際に長くいると、突然波が来ることもあるので、気をつけてください！



人工物 その2 ～マイクロプラスチック～

なぎさの体験学習館の目の前は、きらきら光る海と砂浜、東には江の島、西には富士山があり美しい景色が広がります。しかし、よーく近づいて見てみましょう。きれいに見える砂浜にはとても小さなごみが紛れています。



5mm以下のプラスチックを“マイクロプラスチック”と呼びます。プラスチックは太陽の光の影響等でもろくなり、波にもまれてとても小さくなります。ここまで小さくなると拾うのは大変ですね。ではどうすれば？プラスチックごみを見つけたら、小さくなってしまいう前に回収することも1つの手です。

